

第33回神戸電鉄粟生線活性化協議会

日時：平成29年12月22日（金）
15：00～16：00
場所：三木市立教育センター4階
大研修室

1 開会

（事務局）

失礼いたします。定刻となりましたので、ただいまから第33回神戸電鉄粟生線活性化協議会を開催させていただきます。

私は、協議会事務局の三木市まちづくり部長の〇〇と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは開会に当たりまして、当協議会の会長でございます仲田三木市長から御挨拶を申し上げます。よろしく願いします。

（会長）

皆さん、こんにちは。今日は年末押し迫ってきました中で、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。前回に協議させていただいて以降の取組について報告をさせていただきたいと思っております。今日はとりあえず協議事項というのを設けておりませんが、プラスアルファとして忌憚のない意見をお聞かせいただければ幸いに思いますので、どうぞよろしく願い申し上げます。簡単ですが、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いします。

（事務局）

ありがとうございます。

それではまずはじめに、このたび人事異動等によりまして今回から新たに協議会に参画をしていただいております委員のかたの御紹介を申し上げます。

神戸西警察署交通第一課長の〇〇様でございます。

（〇〇委員）

〇〇でございます。よろしく願いいたします。

（事務局）

どうぞよろしく願いいたします。

次に、本日の委員の出欠状況について、御報告いたします。

本日につきましては、神戸市建設局の〇〇計画課長様、小野市地域振興部道路河川課の〇〇課長様、兵庫県三木警察署の〇〇交通課長様、〇〇委員様、それから神戸商工会議所〇〇常務理事様、兵庫県立三木東高等学校主幹教諭〇〇様、兵庫県立小野高等学校教諭〇〇様の御欠席ということでございます。

それと、オブザーバーにつきましては、〇〇国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部首席運輸企画専門官並びに兵庫県神戸県民センター県民交流室の〇〇参

事様が御欠席と聞いております。

したがいまして、本日の出席状況につきましては、委員25名中18名の出席となっております。過半数以上の出席をいただいておりますので、協議会規約第8条第4項の規定によりまして本会議は成立していることを御報告いたします。

2 報告事項

(1) 神戸電鉄粟生線活性化の取組等に対する支援に関する国への要望活動の実施について

(事務局)

それでは、次第にしがいまして会議のほうを進めてまいりたいと思います。

2の「報告事項」に入りたいと思います。これ以後の進行につきましては仲田会長からよろしく願いいたします。

(会長)

それではお手元にお配りしております式次第に沿って進行をさせていただきます。

まず、報告事項であります。報告事項1の「神戸電鉄粟生線活性化の取組等に対する支援に関する国への要望活動の実施」について、まずは事務局から御報告願います。

(事務局)

失礼いたします。まちづくり部交通政策課長の〇〇でございます。

当報告につきましては、私から行わせていただきたいと思います。座って失礼をいたします。

お手元右肩に資料1と書いてある資料を御用意いただきたいと思います。本協議会におきましては、本年の9月4日に国のほうへ要望活動を実施してまいりました。本日は簡単ではございますけれども、その要望内容等につきまして、要望実績につきまして、御報告をいたします。

まず1-1ページをお願いいたします。このたびの行いました要望の趣旨といたしましては、そこに書いてあります大きく3点でございました。1点目につきましては、神戸電鉄さんが行っております車両更新などについての支援の堅持・拡充ということです。2つ目につきましては、当協議会が行います活性化事業に対する国の補助対象範囲の拡充、そして、補助対象期間の延長というものでございます。そして、3つ目といたしましては、粟生線は大規模災害等が発生した場合における輸送手段、必要不可欠な路線という位置付けでありますことから、将来にわたる粟生線の存続についての支援。この3つについて要望を行ってまいりました。要望者につきましては仲田会長をはじめといたしまして、随行者といたしましては〇〇委員をはじめとする6名でございました。

資料の1-2ページをお願いいたします。このたびの要望活動の

実績といたしまして、面会者それからその他の要望者ということでまとめさせていただきます。

まず、面会者につきましては、そこに記載のとおり秋本国土交通大臣政務官をはじめとする8名の皆様に実際に面会をさせていただきまして、要望を行わせていただきました。それから(2)「その他要望先」というところですが、国会議員さん、それから次の1-3ページにわたりますが、国土交通省の職員ということで、それぞれ秘書あるいは本人さんに直接、要望書等を手渡しすることによりまして要望させていただいたところがございます。

要望におきまして、国からもコメント等をいただいております。まず、国におかれましては神戸電鉄さんも独自で国のほうへ要望へ行かれていますということでございまして、国におかれましても神戸電鉄の実情というものはよく御認識をされておられました。国といたしましても、地域と一緒に公共交通の利用促進に取り組んでいく自治体、また、そういった事業者を国としても応援していきたいということを言われておりました。ですので、各地域におきましては公共交通の利用促進をしっかりとお願いしたいというコメントもいただいたところがございます。

それと、面会者の中にも記載がございますけれども、地域鉄道支援室長安西室長でございますけれども、面会をさせていただいた際には、国としても地方鉄道の新車購入についての予算を確保して事業者への支援を検討していきたいという具体的な発言もいただいたところがございます。

我々が要望へ赴きましたのが9月4日でございまして、その2日後、9月6日には神戸新聞にも大きく取り上げられておりましたけれども、地方鉄道の新車購入補助ということで、国においても来年度の平成30年度から制度を創設する方針を掲げたといったような記事の記載もございました。ですので、このたびの要望につきましては非常にタイムリーなものであったというふうに捉まえているところがございます。

本件につきましての報告は、以上となります。

(会長)

ありがとうございました。

この点について、何か御意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。なければ、次に移ります。

(2) 粟生線の利用状況について

(会長)

「粟生線の利用状況について」ということで、神戸電鉄さんからお願いします。

(〇〇委員)

それでは利用状況につきまして、神戸電鉄から御説明させていただきます。御紹介なかったんですけど、「しんちゃん」をそこに置いていただいて、

65周年を盛り上げていただけて非常にありがたく思っております。利用が増えればというところではあるんですけども、がんばっていききたいなと思っております。よろしく申し上げます。

お手元の資料2でございますけれども、粟生線の上半期の実績を記載しております。資料の見方なんですけれども、1つ目の表でございますが、左側に「乗車駅」ということで、その乗車駅が属する路線名が書いてあります。右側に行くにつれまして「降車駅」ということで、降車駅が属する路線名が書いてございます。ですから、最初の行「粟生線」というところでみていきますと、890万人って書いてあるところが、粟生線から乗って粟生線で降りると。失礼しました。89万人ですね。その次、56万2,000人って書いてあるところが粟生線で乗って有馬線で降りた。こういうように見ていただければなと思っております。粟生線から乗ってどこかで降りたという合計が一番右側になっておりまして、251万5,000人というようなことでありました。更に今度は「粟生線」を縦に数字が並んでおりますけれども、これはどこかから乗ってきて粟生線で降りたかたが一番下255万8,000人ということでございます。ですから、その下の2のところに「実利用者数」と書いておるんですけども、ここは今申し上げました251万5,000人と255万8,000人、これを足したものから、粟生線で乗って粟生線で降りたってことは重複してますんで、その分を控除した分が418万人ということで、上半期はそういう実績でございました。

更に3つ目でございますが、3つ目は各駅での乗降の様子を書いております。一番最初に「鈴蘭台西口」というところ見ていただいて横へ行きますと、「乗車・降車人数」って書いたところに「粟」の「粟」ですね。「粟」の「粟」って書いてあるのが粟生線内で乗って粟生線内で降りた分っていうことで、鈴蘭台西口で乗ったかた若しくは鈴蘭台西口で降りたかたと、粟生線内の利用に関してですね、っていうかたがこの3万5,000人おられたと。有馬線から乗ってきて鈴蘭台西口駅で降りたっていうかたが20万7,600人ほどおられたと。逆に、鈴蘭台西口から乗って有馬線のほうに行かれたかたが20万3,800人ほどおられたと。合計でこの駅では44万6,800人の乗降がありまして、これを1日に直すと1日当たり2,442人ということで、これが粟生線全体の乗降者数に占める割合が8.8%であったというふうに見ていただければと思います。それぞれにつきましては説明を割愛させていただきました。そういった結果になっております。

次のページに行ってくださいまして、2-2でございますが、これが昨年度の上半期、同期間と比べた場合に増減がどうなったかという表になってございます。1つ目の表を見ていただきますと、粟生線内の乗降につきましては8,610人のマイナスであったと。有馬線に降りたかたが1万2,000人のマイナスであったという形を見ていただいて、全体では3万人。逆に、粟生

線で降りた形の利用の場合は、3万1,000人のマイナスであったと。トータルしますと、2のところでございますけれども、実利用者は5万2,900人のマイナス、これを1日当たりでいいますと289人、昨年に比べて1.2%のマイナスであったということでございます。

下の3のところを見ていただきますと、また各駅の乗降がございまして、「1日当たり」というところを見ていただきますと、鈴蘭台西口のマイナス20人から粟生駅のマイナス11人というところでマイナスが続いてるんですけども、プラスの出ているところですが、木津駅については複合産業団地への入居が進んだこと。あるいは、好景気の中で企業の工場の稼働率が上がり、パートとかアルバイトの従業員のかたが多く通勤されたと。そういったようなことから1日当たり71人の増になっていると。あと、大村駅につきましては住宅が増えてるというのもあるんですけども、それプラス、ここは高校の影響がございまして、加古川線のほうから来られるかたが増えると、三木高校に行かれるかたが増えると大村駅が増えると。逆に、三木市内のほうから来られると三木駅が増える。それは毎年毎年学生のどこから通われてるかによって違うので、そういう影響もここには出ていると。

あと、この表から読み取れないことで補足をさせていただきますと、樫山駅につきましては9月から、後ほど御報告があるかと思いますが、小野市さんのほうで「らん♡らんバス匠台ルート」を新設していただきました。工業団地への通勤、従業員のかたがそこからその「らん♡らんバス」に乗って行っていることになっておりまして、上半期でいうと9月しか入っていないのでここマイナスになっているんですけど、直近の状況だけ補足をさせていただきますと、例えば10月単体で見ますと、実利用者が12%前年より増えています。それと、定期券を買われた数なんですけれども、1か月当たりの定期券を持ってるかたの人数が昨年と比べると48人増えているということでございます。ということになってございまして、これは年度で締めたときには大きくプラスになっていくと。たぶん木津のこの増減率よりも上回ってくるプラスになってくると今のところみております。

こういうところをみますと、利用が増えるところというのはやはり周辺の就業環境であるとか、そういったまちづくりと連携したそういった施策は非常に有効になっているということが一つ言えるのかなというところでございます。

あと、今年度のトピックスとして、3月に西鈴蘭台と志染間の昼間時間帯の本数を1時間当たり4本というところ、片道4本というところを2本に減便させていただいたことがあるんですけども、ここの影響につきまして、現時点での見込みでございますが、1日当たり40人のマイナスになっているのかなとみております。これは、20便減便させていただきましたので、1便当たりだと2人お客様が減ったと。そのほかのお客様につきましては時間をずらしていただくなどということで、今日も電車に乗ってまいりましたが非常に混

んでおりました。そういう意味ではちょっとお客様には御不便をお掛けしておりますけれども、それぐらいで今のところは済んでるんじゃないかなというところでみております。それよりも、この2-2の3の表の一番下に粟生線合計で1日当たりどれだけ減ってるかという、336人減ってますということですから、やはり通勤、通学をはじめとしたその構造的なところの要因が非常に大きくて、またここに対して対処していく必要があるのかなというところで、上半期の利用状況につきまして御報告とさせていただきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございました。この件について何か御質問等がありましたら挙手にてお願いいたします。よろしいですか。

では、引き続き、次の議題に移りたいと思っております。

(3) 平成29年度の協議会事業の取組状況について

ア モビリティ・マネジメントの取組状況について

イ 駅前パーク&ライド時間貸駐車場の利用状況について

ウ らんらんバス「匠台ルート」について

(会長)

「平成29年度の協議会事業の取組状況について」ということで事務局からお願いします。

(事務局)

三木市まちづくり部交通政策課の〇〇と申します。私から「平成29年度の協議会事業の取組状況について」という項目を御説明させていただきます。使う資料ですね、資料3から資料6、それから配布資料となっております「神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画」の概要版と「粟生線&バス乗継ガイド」を使って御説明をさせていただきます。以下、座って説明させていただきます。

そういたしますと、まず「神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画（概要版）」という配布資料となっております冊子をお手元に見ただけですでしょうか。こちら、本年4月に策定いたしました形成計画の概要版となっております。1枚めくっていただきまして3ページ目右側のページでございますけれども、6番「主な施策及び事業」ということで、基本方針1、基本方針2、基本方針3と大きく3つの基本方針を打ち立てております。その中に、それぞれ4つの事業が入り込んでおりまして、本日御説明させていただくのはこの4つの事業の中で具体的な取組について御説明をさせていただくということになります。

1枚めくっていただきまして、裏表紙のところになりますけれども、8番「推進体制と役割分担」ということで、本計画を確実に推進していくために、行政、交通事業者、地域住民等がそれぞれの役割を分担しながら、役割を果た

していくことが重要であるということで計画を策定しましたので、この後につきましてはPDCA、計画、実施、検証・評価、改善というこのPDCAサイクルを回していくということになります。したがって、事業の具体的な取組を御説明する中でさまざまな検証や評価、意見等をいただきまして計画を着実に進めていくという方向性で進めていきたいと思っております。

そういったしますと、資料3、A3横長の資料を使いまして、平成29年度の具体的な取組について少しみていきたいと思っております。

資料3、表の見方でございますけれども、一番左側「基本方針」とございませぬのがさきほど述べさせていただきました基本方針1、2、3ということになります。右側に順に見ていただきますと「事業」がございまして、その中に「具体的な取組」を記載しておると、計画期間は平成29年から平成33年の5年間、ひとまず本日御説明させていただくのは平成29年の実績及び取組状況等ということになります。参考といたしまして、一番右側に平成28年度の取組状況を記載しております。それでは、具体的な中身をみていきたいと思っております。

事業①番「鉄道とバスの連携強化」、黄色の網掛けのところでは、(1)「鉄道とバスの広域時刻表の作成」ということで、本年度「栗生線&バス乗継ガイド」の作成、1万部発行しております。それに加えまして、小野市様のほうで市内公共交通総合時刻表の作成ということで、市内全戸配布をされていらっしゃると思います。「栗生線&バス乗継ガイド」につきましては、お配りしている配布資料の中に「栗生線&バス乗継ガイド」があります。こちらを見ていただけますでしょうか。こちら電車とバスの時刻表となっております、開いていただきますと前半2ページから9ページまでにつきましては、神戸電鉄栗生線の時刻表となっております。後半10ページ以降につきましては、栗生線の各駅から発車します路線バスの時刻表、それから「らん♡らんバス」さん、コミュニティバスの時刻表となっております。こういう形で、電車に乗って駅で降りましてそこから目的地に行くまでにどのバスに乗ったらいいのかというのが、この1冊を持っているだけですぐに分かるということで、電車とバスの乗継ぎをスムーズに御案内しようという目的の基に作成しております。ひとまず「栗生線&バス乗継ガイド」の説明は以上とさせていただきます、資料3本編に戻りまして御説明を続けさせていただきますと思っております。

続きます(2)「鉄道とバスのダイヤ調整」ということで、平成30年4月のバスダイヤ改正に向けまして調整を進めているほか、小野市様におかれましては駅と地域を結ぶ「らん♡らんバス」の運行を実施いただいております。

続きまして②番「交通結節点の強化」ということで、(1)「パーク&ライド駐車場の活用、キス&ライドの推進」ということでございます。こちら11月末時点の数値となっております。利用台数につきましては御覧いただいております。恵比須駅につきましては、本年10月から社会実験といたしまし

て当駐車場における粟生線利用者への駐車料金割引を拡充しております。こちらにつきましては、後ほど資料5において詳細を御説明させていただきます。

それから(2)「駅、バス停の設備等の整備による快適性の向上」、それから(4)「交通結節点のバリアフリー化」、番号飛びまして(6)「交通結節点におけるタクシーの利便性の向上」という項目につきましては、神戸市の鈴蘭台駅周辺の再開発に関する取組を記載しております。この再開発に伴いましてバス停留所を整備したりとか、情報スペースを整備したりとか、またタクシー乗り場を配置する予定であったりとか、そのあたりの動きを記載しております。

それから順番前後しますが(5)「住宅地から駅への新規バスルートの検討」というところでは、北五葉地区と西鈴蘭台駅の交通アクセスについて検討を開始したという動きを記載しております。

③番「鉄道施設の更新・改良による安全性の確保、輸送サービスの向上」というところでございますけれども、(1)「鉄道施設の更新・改良による安全で安定した輸送サービスの確保」というところにつきましては、国、県、神戸市、三木市、小野市及び三田市による協調補助、補助見込額9億8,400万というところ。それに加えて、車両更新にかかる独自補助。これは三木市の取組でございます。こちらの実施を予定しております。

(2)「鉄道施設の更新・改良に合わせた輸送サービスの改善」では、新型6500系車両2編成の新造ということになっております。

ページをめくっていただけますでしょうか。基本方針2番「まちづくりと連携した地域公共交通網の形成」という箇所を御説明させていただきます。

①番「駅を中心としたまちづくりの推進」、(1)「まちの再生」、(2)「企業誘致の推進」、それから(4)「駅周辺における区画整理事業の実施」ということで、それぞれ神戸市さん、三木市、小野市さんのまちづくりに関する取組を記載しております。

②番「観光資源の開発とアクセス手段の確保」ということで、こちらにつきましては(2)ですね。平成29年度、本年度につきましては神戸電鉄様のほうでネスタリゾート神戸さんと連携されまして「電車&プール格安クーポン」を発売しております。

③番「住宅・企業の立地を支える公共交通網の充実」ということで、(1)神戸市様のほうの西鈴蘭台駅と北五葉、日の峰、筑紫が丘方面を結ぶ阪急バスが新たに運行を開始しております。また、木津駅と神戸複合産業団地を結ぶ神姫バスさんのルートが新たに運行開始ということ。それから、北五葉地区と西鈴蘭台駅の交通アクセスについての検討を開始。さきほども述べさせていただきました部分です。それから、小野市様におかれましては、「らんらんバス」において壱山駅と匠台の流通等業務団地及び工業団地を結ぶ匠台ルートを新設されております。こちらにつきましては、後ほど資料6を使いまして詳細を御説明させていただきます。

続きまして④－1「交通結節点におけるにぎわいの創出」ということで、(2)「駅周辺のにぎわい創出」ということで、こちら鈴蘭台駅前再開発工事の推進、神戸市様の取組を記載しております。

ページをめくっていただきまして、④－2「交通結節点におけるにぎわいの創出（沿線外）」というところで、(1)「地域の公共交通利用につながる目的周辺のにぎわい創出」ということで、「神戸新開地・喜楽館」の平成30年夏のオープンに向けて整備中。それから、三宮を中心とした都心の再整備に向け、引き続き検討中というところでございます。

方針3番「地域公共交通の活性化及び利用促進」ということで、①番「日常利用に対するモビリティ・マネジメントの実施」ということです。(1)「住民に対する地域公共交通利用への協力要請」ということで、住民に対するモビリティ・マネジメントを実施しております。対象者数506人となっております。詳細につきましては資料4で御説明させていただきます。

(2)「園児・小中学生に対するモビリティ・マネジメントの実施」ということにつきましては、バスの乗り方教室を三木市において実施しております。神姫バス様にも御協力をいただきまして、東吉川小学校の1、2年生を対象にバスの乗車体験等を実施しております。それから、神鉄トレインフェスティバルも例年実施しておりますけれども、来場者数2,770人ということで大変好評いただいております。

(4)「地域住民・組織・団体の主体的な取組のサポート」ということで、神戸電鉄利用促進活動補助金の交付。本年2件取組をしております。8月の食づくりの会感謝祭、それから11月から始まっております神戸電鉄写真展をいたしております。それから粟生線サポーターズクラブの運営サポートということで、こちら12月24日、日曜日に緑が丘駅で粟生線サポーターズクラブの会員有志によるイベントの開催を予定されております。

②「職場におけるモビリティ・マネジメントの実施」ということで、(1)「企業に対する地域公共交通利用への協力要請」ということで、神戸市様において神戸市西区役所の職員さん、それから神戸複合産業団地の従業員等にモビリティ・マネジメントを実施されております。こちら後ほど資料4で詳細を説明させていただきます。

1ページめくっていただけますでしょうか。③番「楽しい＜非日常＞利用に対するモビリティ・マネジメントの実施」ということで、(1)「地域内のイベントや施設・団体等との連携による地域活性化」ということで、粟生線乗ろうDAY!プログラム、それからそれ以外につきましても三木鉄道記念公園納涼夕涼み会において神鉄ミニトレインの運行をしております。それから、本年度「西区ふるさと散策のみちスタンプラリー」におきましては、「粟生線沿線散策のみち」コースを新たに設置しております。11月には北播磨ふるさとフェスタ、三木市が会場となっておりますが、このフェスタへ協議会のブース

を出展しております。

(2) 「子育て世帯をターゲットとした交流イベントの開催」ということで、さきほど出ましたけれども神鉄ミニトレインの運行、神鉄トレインフェスティバル、電車に乗ってハッピークリスマスに加えまして、三木金物まつりで神鉄ミニトレインの運行も実施しております。

(3) のハイキングイベントでは、神鉄ハイキングの実施ということで、実施回数87回、参加者数においては9,832人ということになっております。

(4) 「地域との協働による季節や地域らしさを感じられる取組の実施」ということにつきましては、小野高校放送部による放送の実施、七夕にちなんだ駅の装飾と列車の運行、クリスマス装飾列車の運行となっております。

最後のページの取組を説明させていただきます。

(5) 「沿線外への地域情報等の発信」ということで、粟生線全線開業65周年記念事業の実施ということでさきほど話にも上がりましたけれども、粟生線活性化協議会のキャラクター「しんちゃん」のぬいぐるみ、会場前面にありますけれども、これを65体製作いたしまして車両の運転席等に設置しております。それから、65周年記念ヘッドマークを6500系の車両の一部に掲出しております。

それから最後の項目ですけれども、④番「企画乗車券等の販売による公共交通の利用促進」ということで、例年取り組んでおります「粟生線家族おでかけっぷ」等の企画乗車券の販売に加えまして、今年度は三木市ふるさと納税における返礼品の提供を10月から開始しております。現時点で6口の申込みをいただいております。

それから、(2)「対象者等を限定した企画乗車券の発行」ということで、神戸市さんの神鉄シーパスワン、神鉄シーパスワンプラスの発売、こちらは前年度同月対比で15%の増加となっております。それから、三木市の神戸電鉄福祉パスの販売におきましても対前年度と比較しまして12.5%の増となっております。資料3の説明は、以上です。

続きまして、資料4について御説明させていただきます。こちらがモビリティ・マネジメントの取組状況の詳細を記載したものになります。時間の都合上、一つ一つ読み上げ等はいりませんが、まず1ページ目につきまして、4番ですね、神姫バス様にも御協力いただいた三木市東吉川小学校でのモビリティ・マネジメントの取組について記載しております。

それから2ページ目ですね、御覧いただけますでしょうか。7番、こちらは三木市のモビリティ・マネジメントで、三木市の高齢者大学大学院の地域活動グループ「粟生線の良さを楽しむ会」のメンバー様に対しまして粟生線の概要の説明や意見交換等を実施いたしました。このモビリティ・マネジメントにおきましては、神戸電鉄様にも参加いただきまして実施したということになっております。

それから8番、9番、10番ですけれども、三木市の各公民館で乳幼児学級の保護者、それからその子どもさんに向けてモビリティ・マネジメントを実施しております。クリスマス装飾列車等のイベントの説明であったり、粟生線サポーターズくらぶの概要の説明であったりとか、そのあたりの話をさせていただきました。

それから、3ページ目を御覧いただけますでしょうか。こちらは職場におけるモビリティ・マネジメントをまとめた表になっております。神戸市様の取組が中心になっておりますけれども、西区役所、それから神戸テクノロジ協議会様、それから神戸複合産業団地の企業様に入らせていただきまして、モビリティ・マネジメントの実施をさせていただいたところがございます。資料4の説明につきましても、以上となります。

続きまして、資料5を御覧いただけますでしょうか。こちらが「駅前パーク&ライド時間貸駐車場の利用状況について」という資料になっております。駅前パーク&ライド時間貸駐車場、全部で97台整備してございますけれども、それぞれの利用状況を記載しております。中ほど、恵比須駅のところを見ていただけますでしょうか。34台、1日当たりの平均ですけれども34台の利用状況で、パーク&ライド利用率は約50%となっております。駐車料金割引の拡充により、利用率は増加傾向ということになっております。詳しい表をその次のページに付けております。1枚めくっていただけますでしょうか。こちらが各駐車場の利用状況を月ごとに細かくまとめた資料になっております。中ほどに恵比須駅、恵比須の時間貸駐車場の利用状況を記載しております。10月と11月に薄く黄色で網掛けをしております51%、53%、こちらはパーク&ライドの利用率になっております。9月までのところでは50%を下回る月が多かったんですけれども、10月から割引のサービスの拡充を実施しまして、51%、53%と少しずつ利用率が上がっているということで、社会実験の一定の効果がみられてきているのではないかとというふうに考えております。資料5につきましても、御説明は以上とさせていただきたいと思っております。

続く資料6、「らん♡らんバス」匠台ルートにつきましても小野市様から御説明をお願いしたいと思っております。

(小野市)

失礼いたします。小野市交通政策グループ〇〇より御説明させていただきます。座って失礼いたします。

匠台ルートは、資料6にも書かせていただいておりますが、市内における就労環境の整備、神戸電鉄粟生線活性化、企業従業員確保を目的といたしまして、本年9月より開始しております。運行は毎週月曜から土曜の運行となっております。実績のほうになってきますが、8番の「利用状況」を御覧いただければと思います。

運行につきましてもは現在11月末時点で3か月、四半期分の運行を終えたと

ころになっておりますけれども、実績につきましては表のとおりとなっております。もともとの目標値というのがひと月当たり2,500人、年間3万人を運行開始8月31日時点で見込んでおりまして、実績といたしましては3か月の合計が5,870人となっております。単純に実績値だけに基きますと3万人には届かないように見受けられますけれども、毎月の乗車人数を御覧いただきますと、9月、10月、11月と順調に利用者数も伸びている状況となっております。このまま進めば目標値に近づく、若しくはしっかり超えるような形になると考えております。

また、参考値といたしまして「パスの販売数」とありますけれども、こちらは匠台ルートに合わせまして本年9月から1か月の定期券を発行しております。その売上状況となっております。平均枚数が現在80枚となっております。こちらにつきましては匠工業会様で大半を買っていただきまして、各企業のかたがたの通勤利用に御利用いただいているという形となっております。

以上、簡単ではありますが、実績の報告とさせていただきます。

(会長)

この29年度の協議会事業の取組状況について今報告あったわけですが、何かこの件についての御意見とかございましたらお願いをいたします。

どうぞ。

(〇〇委員)

ちょっと1点、どうもありがとうございます。神戸電鉄さんに、これを受けてもう一度、さきほどの各駅ごとの乗車のプラスマイナスですね、これのおかげでこんだけ増えましたっていうのが顕著に現れている部分、あるいは逆の影響で減ってますっていうような部分、その辺のところで見えて現れるものがあればちょっとピックアップして御紹介いただきたいということが1点。

それから、せっかく市長来ていただいていますんで、こちらの計画の中で、例えば緑が丘のまちの再生ですとか三木サービスエリアの件ですとか、その当時いろいろ構想されて、その後検討がなされてる件につきまして、簡単で結構ですからその後の経緯を御紹介いただきたいというのと、以上2点よろしくお願いたします。

(〇〇委員)

まず1点目ですね、この取組がどれだけ各駅の乗降に効果があったのかというところで、分かるものがあれば御説明してほしいというところにつきまして説明させていただきます。

さきほどもちょっと触れさせていただいたところではあるんですけども、まず一番目に付くのが「らんらんバス」の匠台ルート新設でございます。さきほど定期券の購入枚数がこれだけ増えましたとかいうところは御説明させていただいたんですが、更にちょっと詳しく申し上げますと、ある特定の駅に多く集中して、特定の区間に集中して定期券を買われたり、それをちょっと申し

上げますと、押部谷－檜山間、それと、三木－檜山間、檜山－市場間ということで、これらにつきましてはそれぞれ10枚を超える定期券購入がございました。これはヒアリングをしてみますと、工業団地に通われる従業員のかが寮か何かになってるんでしょうか、集団でお住みになられてそこから来られてるというふうに聞いてございます。ですから、これは単に粟生線の利用者数が増えたということだけでなく、たぶん人口増というようなところにも効いてきているのかなと。従業員の確保ということも工業団地側であったわけですが、そういう効果がちょっと出ておるのかなというふうにみてございます。

あと、木津駅の件もそうですし、乗降でいいますと後はなかなか、この取組のほとんどがモビリティ・マネジメントということで、利用をできるだけ過度に車を使うのを減らして電車に乗り換えましょうというところをメインにやっていたら活動がほとんどですので、なかなかそれはすぐに出てくるというところではないと思います。

あと、鈴蘭台駅の周辺であるとか、西鈴あたりの端末交通というかアクセスをよくするために、例えばこの北五葉地区と西鈴蘭台駅の交通アクセスについて検討を開始ということであるんですけども、これなんかもまちで高齢化が進んでいきますと、高齢者のかたは100メートル超えてくるとなかなか出るのもおっくうだとか、特に坂道が多い当社沿線ではそういうことがありまして、例えばこれなんかは乗合いのタクシーで安く、もうほんとに北五葉と西鈴って近いんですけど、そういったところが外出できるようにならないかということを検討している話なんですけれども、そういうなんが出てくるともうちょっと利用が増えてくるのかなと。結構沿線ってどこでもそうなんですけれども、高齢者が増えてきた中でそういう外出機会が減っちゃってるっていう現象がありますので、それをうまいことしていくと、ひょっとすると公共交通使って出かけていただける、健康になっていただいてそういう部分の行政コストも減ってくる、そういうことにつながるんじゃないかなということやっておりますけども、まだちょっと形にはなってきてないです。

鈴蘭台駅につきましては来年の夏開業しますし、駅舎がきれいになるというところと、あと区役所がちょっと離れていたところがもう駅前に来ますので、そういう意味では利用が増えていくってくれるのかなと。まだまだこれやったからすぐ増えるっていうのはなかなか鉄道の場合なくて、長期間かけて増やしていくと、積み上げていくということかと思えます。それと併せて、今原因になっているところに対して、構造的に人口動態が変わってきているというところに対して、これも長期の取組になると思えますけど、どう手を打っていくのかなというところかと思えます。

あと、イベント的に増やすという意味では、さきほどありました「しんちゃん」の65周年につきましては、電車に乗ってうちの沿線全てに行ってますからいろんなところからお声がけをいただいています。「かわいいキャラクターが

乗ってるね」という意味ではすごく認知度が上がってきてるのかなと思っております。これは65周年ということで、そもそも「しんちゃん」は粟生線の活性化キャラクターとして誕生したわけですけれども、来年当社は有馬線開業して、要するに当社線が開業して90周年になります。ですから、これをもうちょっと大きな取組にしていって、全線含めた「しんちゃん」の認知度の向上も図りながらもっと盛り上げていきたいなというふうに思っております。以上でございます。

(〇〇委員)

ありがとうございます。

(会長)

では、私のほうから三木サービスエリアの開発と三木の緑が丘のまちの再生についての質問がありましたので、お答えさせていただきます。

三木サービスエリア周辺の開発については、私が市長就任以降、なかなか厳しい課題だということはよく分かっておりましたけれども、その上で県と一緒にしまして県市検討会をこれまで重ねてまいりました。先般、神戸新聞で発表もさせていただいたんですが、地権者もたしか120人ぐらいいるということ、そして併せまして、その用地を全て買収できるという前提で事業スキームが組まれておりましたので、現実的には非常に難しいということで県市検討会の中では断念する方向でということで結論を出させていただきました。

この後、来年度に入りましてからはその地元の説明を1月、2月、3月ぐらいにかけてさせていただきたいということでもあります。

緑が丘のまちの再生についてであります。これも前市長さんが緑が丘の駅の周辺の土地を市が買って、そこに高齢者若しくは若者も一緒に住めるような建物を、それを民間に造ってもらってはどうかという提案であったんですが、緑が丘につきましては空き家もたくさんあるという状況、そこまで市が関わるものかという状況の中で、一旦とりあえず白紙にさせてくださいということで白紙にさせていただきますして、その中で三木市の市の職員8名ほどでプロジェクトというか検討チームを作りまして、どんな意見でもいいから出してほしいということで、これは来週その検討会の報告会があるんですけども、それをさせていただいて、その中でいい意見があれば提案としてさせていただきたい。ただ、その緑が丘の駅前について一つだけ前提条件として、緑が丘の歩いてすぐのところに駅があるんだと、その利点を活かした構想を練ってくれという話でさせていただいております。おおむねだいたい内容は煮詰まっております。私が今聞いている限りはいろんな提案の中から2つに絞られてるようです。それが今度報告会があるということで御理解をいただきたいと思えます。また、いろんな形で広報をさせていただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

あと少し余談になるんですが、これから人口がどちらかという減っていく。

その中で、これまでバスと電車の競争をしてきたような経過もありますし、自治体間も競争してきたようなところがあります。しかしながら、これからは同じパイが減っていく中で共存していくべきだという想いがあります。例えば、これ神戸電鉄だけで申し上げますと、今、神戸、三木、小野、当然中心になってさせていただいてますが、例えば、三木から西脇高校や西脇工業高校へ行ってる子もいますし、西脇の黒田庄から三木東高校に来てる子もいますし、加西から三木高に来てる子もいます。そうした観点から考えますと、やはり地理的に北播磨の県民局さんに少し積極的に関与していただいて、広域的に考える必要があるんじゃないかということで、12月6日に知事並びに各首長さんが集まる会議がありまして、そこで三木市からそういう提案もさせていただいておりますし、その前に11月の末に「地域夢会議」ということで、これはうちの副市長、合田副市長に出てもらったんですけども、そこでは兵庫県から金沢副知事が来られてまして、その中での意見でもやはりこの公共交通に対する意見というか、お話がたくさんあったようでもありますので、今繰返しになりますが、三木市としては広域的に考えるようなことも検討してほしいということで県に要望しておるといような状況であります。よろしいでしょうか。

(〇〇委員)

どうもありがとうございます。

(会長)

ほかに御意見は。

(〇〇委員)

意見というよりは、お願いは、すぐ利用する状況には結び付かないでもモビリティ・マネジメントは大切な活動なので、今までより範囲を広げて、今度、若いお母さんをターゲットにしたのも始めたというのもいいことなので、そちらの住民のかた向けにはだんだんメニューが増えているので、職場向けのやつが神戸市さんが取り組んでいるものだけが今のところ挙がっているので、ぜひ三木市さんも小野市さんもそのあたりも少しお考えいただければいいのかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。

(副会長)

小野市も今、兵庫県と一緒に新産業団地という取組をしております、ここが40ヘクタール、分譲地は25ヘクタールで10社程度で従業員が約1,000名というような取組もしておりますし、小野市がつけたその新都市中央線という道路があるんですけども、その周辺の開発もいろいろと計画してみたい。それがひいては神戸電鉄の存続につながる、乗客増につながる活動になりますので、新産業団地についてはもう平成33年に売却、一部31年から売却を始めまして33年には売却を終わりたいという勢いで、いろいろと企業

ともさまざまな情報収集もしておりますので、そういう、もう3、4年したら一つの形ができてくるかなということで、これが神戸電鉄、そのときには更にバスの増車をしまして神戸電鉄の乗客増につなげていきたいというふうに考えております。

(会長)

ほかに御意見とか何か御要望とかございますでしょうか。よろしいですか。では、事務局に司会を譲ります。

3 閉会

(事務局)

長時間にわたり、ありがとうございました。

次第の中では「その他」ということはございますが、特にないようですので、これで第33回神戸電鉄粟生線活性化協議会の閉会をさせていただきたいと思っております。

委員の皆さんにおかれましては、遠いところ三木市にお越しいただきましてどうもありがとうございました。

なお、お帰りにつきましては十分お気を付けてお帰りいただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。